

## 83 「経済センサスー活動調査」から分かること 平成30年7月19日掲載

これまで、わが国の産業を対象とする大規模統計調査は、産業分野ごとにそれぞれ異なる時期、周期で実施されていたため、同一時点での産業構造全体の把握はできない状況となっていました。

こうした課題を解決するため、総務省と経済産業省は「経済センサスー活動調査」を2012（平成24）年に開始しました。この「センサス」という言葉には「全数調査」という意味があり、この調査では全ての企業・事業所が対象となることを意味しています。

2016（平成28）年には2回目の調査も行われ、このたび全ての調査結果が出そろいました。

今回は、この2回の調査結果から、調査対象であった2011年と2015年の状況を比べてみようと思います。

2015（平成27）年の山口県では何があったか覚えていらっしゃいますか。

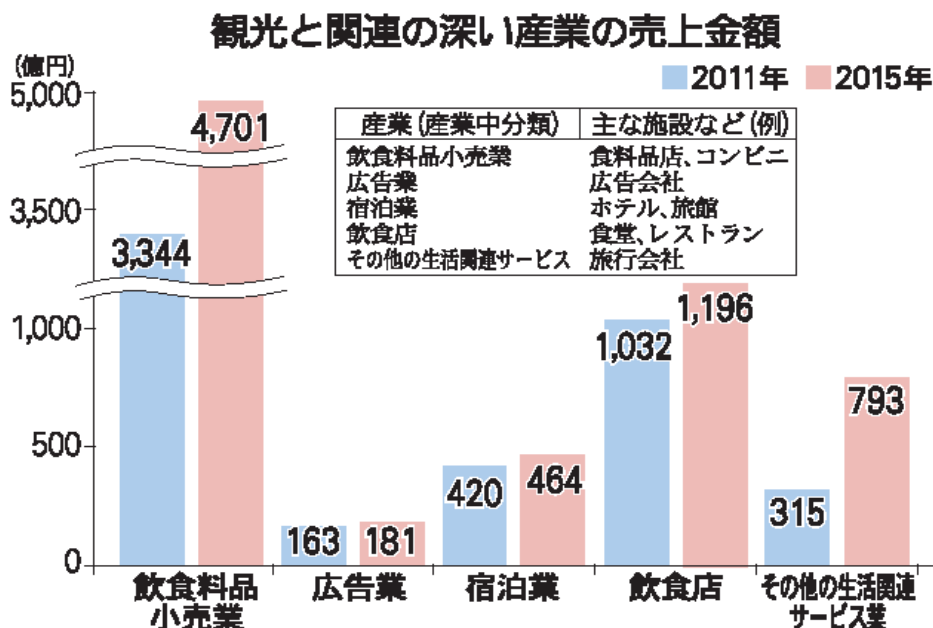
この年は、大河ドラマ「花燃ゆ」の放送や「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録、「Mine秋吉台ジオパーク」の日本ジオパーク認定などがあり、本県の観光客数が過去最高を記録した年なのです！

そこで、観光客数と関連の深い産業（日本標準産業分類の中分類）の売上金額をグラフにしてみました。

飲食料品小売業は1,357億円、41%、また、旅行会社を含む「その他の生活関連サービス業」は478億円、152%増加するなど、2011年よりも売り上げが大きく増えていますね。

観光客数の増加のみをここで紹介した産業の売上金額増加の要因とすることはできませんが、少なからず影響を及ぼしているようです。

5年に一度の調査ですが、その年にどういうことがあったかを「宝さがし」のように統計の数値と照らし合わせて見ると、いろいろなことが分かってきそうです。



出典：総務省「経済センサス-活動調査」